



表紙写真/満月と首里城

CONTENTS

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.138**
食糧生活における面で民衆の福祉に
重大な責任を持つ公益性を持つ会社
沖縄食糧株式会社 代表取締役社長 竹内 聡
- 4 **‘うといむち’でムスリム インバウンド!**
— 沖縄旅行参加ムスリム編 —
- 10 **地域リレーションシップ情報⁽¹²⁹⁾**
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
地域中小企業人材バンク事業
(中小企業・小規模事業者人材対策事業)について
- 12 **トピックス**
2015年4－6月期の県内景況
- 14 **けいざい風水**
- 16 **おきぎんカトレアクラブ通信**
- 18 **最近の県内経済の動向**
2015年6月の県内景況
- 20 **国内景気動向**
- 22 **沖縄マーケティング情報**
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 42 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)
2015年7月
- 44 **各種セミナー等開催インフォメーション**
- 46 **おきぎん調査レポート・バックナンバー** (分野別)
- 50 **ゆがふ編集後記**

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。

<https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp>

※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

食糧生活における面で民衆の福祉に 重大な責任を持つ公益性を持つ会社

沖縄食糧株式会社

代表取締役社長 竹内 聡



今回は、戦後、食糧配給が民営化され指定業者として発足し、沖縄県民の食を支えて65周年を迎えられた、沖縄食糧株式会社の専務取締役 中村徹 様にお話を伺って参りました。

創立65周年を迎えて

昭和25年（1950年）7月1日、現在的那覇市泉崎付近に米軍政府の食糧品配給代行指定会社として沖縄食糧株式会社を設立しました。昭和28年には自主的な米の買い付けを始め、沖縄の食糧配給の基礎をつくりました。昭和30年には、浦添市勢理客の現在地に近代的（当時としては）な設備と保管を兼ね備えた倉庫と本社社屋、精米工場等を完成、移転しました。現在でもある大きな倉庫3棟は米国琉球民政府による援助で建てられたもので、当時の米国の建築基準で建てられ、その後建てられた建物よりも強固な造りとなっています。



▲昭和30年2月完成の大型倉庫

初代社長・竹内和三郎氏が創立総会の席上で、「本社はもちろん株式組織による営利会社という事になっておりますが、他の一般の営利会社とはいささか趣きを異にしており、食糧生活における面で民衆の福祉に重大な責任を持つ公益性を持つ会社である、という事をはっきりご認識を頂きたいと思います。従って第一のそして最大のこの会社の重点はあくまでも民衆の福祉という点におかなければならないと考えるものであります。」と、述べました。

この精神を受け継ぎ、「県民の皆さまへ安心で安全なおいしいおコメの安定供給」という理念を

柱に、経営・商品開発を行っています。

創立65周年を迎えた現在では、沖縄の健康長寿の復活に向けて、機能性を持った「金芽米」や「金芽ロウカット玄米」などの提供や、環境保全において、節水及びCO₂排出削減に効果がある「愛を米無洗米」を提供するなど、食を扱う企業としての立場から社会貢献に努めています。

毎日食べるお米だからこそ、お米に機能性を

沖縄食糧は人々の健康を願い、不足しがちな栄養素を主食のお米でも摂取できるよう、長い年月をかけて研究開発しています。毎日食べるお米だからこそ、お米に機能性を持たすことで体を改善し、健康長寿に繋がればと考えています。

不足しがちな鉄分やビタミンEをコーティングした「カルライナス」や、県内初の雑穀アドバイザーが栄養のバランスを考えて選んだ雑穀を美味しくブレンドした「お米屋の雑穀物語」、また最近では、「金芽米」、「金芽ロウカット玄米」に力を入れています。

「金芽米」は、美味しさと栄養を両立したお米で、精白米より、うまみ成分である『亜糊粉層』が多いため、甘みやコクがあり、また胚芽の一部が残っているため栄養価が高いのが特徴です。



▲金芽米の特徴

また、「亜糊粉層」には自然免疫機能を活性化させる成分を多く含んでいることから、生活習慣病や感染症、がん、アレルギーなどの疾患を予防・治療する効果が期待されています。

「金芽ロウカット玄米」は、金芽米の手法を応用した新技術によって、玄米表面にある硬くて防水性の高い「ロウ層」を均等に除去し、玄米の高い栄養素はそのまま、白米感覚で食べる事が可能になった玄米です。粒の吸水が白米と同じように膨張し、ふっくらした炊きあがりとなります。玄米は健康に良いのは分かっているものの、食べづらくて続かなかったという方も美味しく食べられます。

1年間の節水効果は2ℓペットボトルで828本分

沖縄食糧は環境保全に取り組んでおり、とぎ洗いが不要で美味しく炊ける、環境に優しい無洗米「愛を米無洗米」に力をいれています。東洋ライスの技術である「BG無洗米製法」は、肌ヌカの粘り気を利用して、肌ヌカをはがし取る製法で、最近では「環境大臣賞」を受賞した精米製法です。

普通精米3合のとぎ洗いは約4.5ℓの水が必要と言われており、無洗米を食べていただくことで、1年間の節水効果は2ℓペットボトルで換算して828本分にもなります。また、工場でもご家庭でもとぎ汁を排出しないことから、下水処理の負担を軽減し、CO₂排出の削減にも役立っています。

沖縄食糧創立65周年事業として、「人、海も健康に」をテーマに、無洗米シリーズのお米1kgにつき1円を一般財団法人沖縄美ら島財団へ寄付しています。

(期間：平成27年7月1日～平成27年9月30日)

安心で安全なおいしいお米の追求

沖縄食糧では、新鮮さを保つために大型低温倉庫を完備し、温度、湿度ともに最適な状態で保管しており、品質管理でも玄米・商品の段階において厳しい品質管理を行っています。

精米工場では、衛生区域と一般区域を区分するなど、一般的な「食品工場」に近い衛生管理を行っています。製造に関わる社員には「精米検査技術者」取得のために研修に参加させています。

原料保管、品質管理、精米技術、ブレンド技術の総力を結集して、安心で安全なおいしいお米を追求しています。



期待が膨らむ海外展開

沖縄食糧では、アジアへのお米の海外輸出を本格化させています。昨年4月に貿易準備室を立ち上げ、昨年10月より香港へ量販店用及び業務用に弊社で精米・包装したお米を輸出しています。香港では日本食ブームの追い風もあり現地での需要は増えています。

二酸化炭素を注入し、お米の酸化、害虫・カビの発生を防ぐ弊社独自の包装技術は、輸送時間の長い海外輸出にも有利になると判断し、輸出事業を本格化させる発端になりました。この包装技術は、沖縄独自の文化でもある、お米の贈答に使われている冬眠包装という技術です。

最近では航路も整備され、香港への輸出日数は最短で4日、台湾へは3日とアジアの中心に位置する沖縄の地の利を活かせる環境が整いつつあり、海外展開の期待が膨らみます。しかし、輸送コストは本土から輸出する場合と差がなく、今後は、弊社を含め、沖縄から船に積む貨物量が増えることで、輸送コストが改善されることを強く期待しています。

沖縄食糧では、生産量が少ない県産米を安定的に輸出するのは難しいのですが、全国各地のお米を取り扱っていることを武器に、精米・包装して付加価値を高めて輸出することで、アジアに近い沖縄の地の利を十分に活かせると考えています。

また、東南アジアは沖縄に似た高温多湿の気候の国が多く、弊社の包装の強みがより活かせるため、今後は香港以外にも、台湾やマレーシアなどの東南アジアを中心に輸出先を拡げていければと思います。



新発売

沖縄食糧の総力を結集して
「味・価格・品質」にこだわりました。

使用する原料にこだわり、
沖縄独自のブレンド技術で
最上級金芽米が
できました。
適度な甘味、
粘りがあり、
ふんわりと柔らかく、
3拍子揃ったお米です。



安心・安全な
「原料保管」
玄米を国内有数の自社
大型低温倉庫で保管



品質向上の
「ブレンド技術」
「米飯食味評価士」に
よってご飯の味を的確
に判断



厳しい基準の
「品質管理」
「米穀検査上級技術者」
による厳しい品質管理



匠の機械
「精米技術」
最新鋭の無洗米機にて
「愛を米無洗米」に加工

Food 沖縄食糧株式会社

沖縄食糧 検索



沖縄県



一般財団法人
沖縄観光コンベンションビューロー

寄稿：一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー

‘うといむち’でムスリム インバウンド！

— 沖縄旅行参加ムスリム編 —

(平成26年度ムスリム等受入環境整備事業より)

沖縄 21 世紀ビジョンでは観光客 1 千万人という目標を掲げ、そのうち外国人観光客を 200 万人としています。これに関連して、新たな市場として注目されているムスリム市場について、沖縄県／一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー（以下 OCVB）では『ムスリム等受入に関する実態調査』を実施いたしました。その調査結果の一部を、8 月号でご紹介させていただきましたが、今回は、沖縄旅行参加ムスリムを対象に行った調査結果を紹介します。

なお、調査結果は、下記 URL よりダウンロード可能です。

【沖縄インバウンド net.】 <https://www.visitokinawa.jp/oin/report/565>

1. はじめに

皆さん、ムスリム、イスラーム、ハラール等々、耳にされたことはありますか？

イスラーム教（イスラム教）はキリスト教に次いで世界第2の規模を有する宗教です。その信者であるムスリムは世界に約 16 億人おり、近い将来には、世界人口の 4 人にひとりがムスリムになると予想されています。近年、ビザ発給条件緩和などで、日本を訪れるムスリム観光客も増えており、また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックを控え、受入体制の整備が急務となっています。しかしながら、厳格なムスリムの方に合わせて先回りすると、逆に窮屈な思いをさせてしまうかもしれません。ムスリム対応は、宗教的戒律の関係で食事や礼拝などの面で配慮が必要ですが、要望にあわせた適切な対応が大切なのです。

2. ムスリム等受入に向けた沖縄県と OCVB の取組

沖縄県／OCVB では、平成 26 年度より世界中から訪れる多様なお客様に対応できる世界水準の観光リゾート地 OKINAWA を目指し『ムスリム等受入環境整備事業』に取り組んでいます。ムスリムが求めているものは何か？ また、県内観光従事者は、ムスリム受入にあたり、何が必要か？ 顧客と受入の双方のニーズを探り、今後、沖縄県に求められる受入環境整備の在り方や支援策などの立案に活用・反映するため、ムスリム・県内観光従事者に対し、アンケート調査を実施いたしました。

調査内容は、ムスリムに対しては、沖縄県の認知度・観光地としての魅力・誘客の可能性・期待される環境整備・ニーズ等を、県内観光従事者に対しては、ムスリム観光客の受入体制の現状・市場に対する関心や意欲・環境整備に対し求める支援策等です。アンケートは、英語・日本語で5種類実施しました。

① 海外現地ムスリム ※調査地マレーシアにて実施	③ 沖縄旅行参加ムスリム
	④ 沖縄県内在住ムスリム
② 海外現地ムスリム取扱旅行社	⑤ 沖縄県内観光従事者

以上の調査結果より、今回は③沖縄旅行参加ムスリムの調査結果について、概要をご紹介します。

3. 沖縄旅行参加ムスリム調査結果の概要

平成 26 年度、シンガポール航空の子会社シルクエアーが、シンガポール・チャンギ空港⇄那覇空港チャーター便を運行し、7 往復・14 便が運行しました。ジェットスターアジアによるチャーター便を含め、昨年度は計 8 往復・16 便が運行しました。アンケート対象者の中で、シンガポール国籍の女性・50 代・主婦が最も多く、旅行同伴者は「趣味仲間と」が半数以上を占めています。図 2【職業】では、主婦に次いで、リタイアされた方、会社員の割合が多くなっています。

訪日が初めての人の割合が、約半数となっています。また、訪日経験がある方へ【訪れたことのある場所は？※初めての訪日を含まず】を尋ねると（図 7）、沖縄が 55 パーセントとなっており、リピーターが多いことがうかがえます。

図 1 【性別】(n=30)

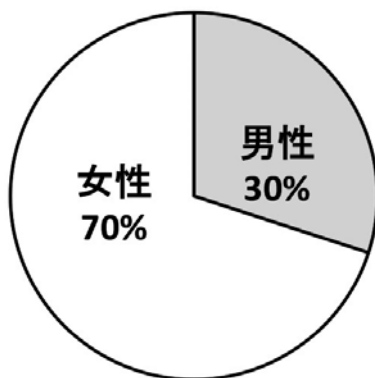


図 2 【職業】(n=29)

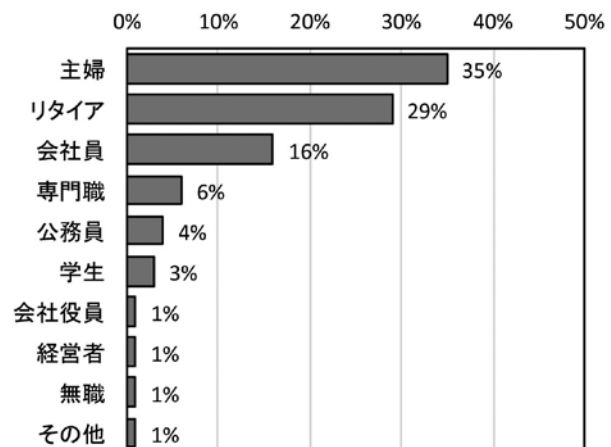


図 3 【年齢】(n=32)

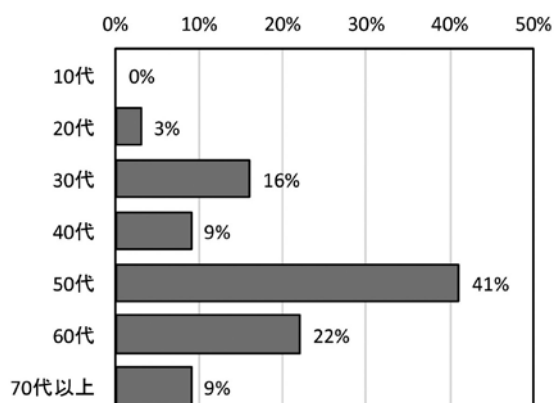


図 4 【国籍】(n=31)

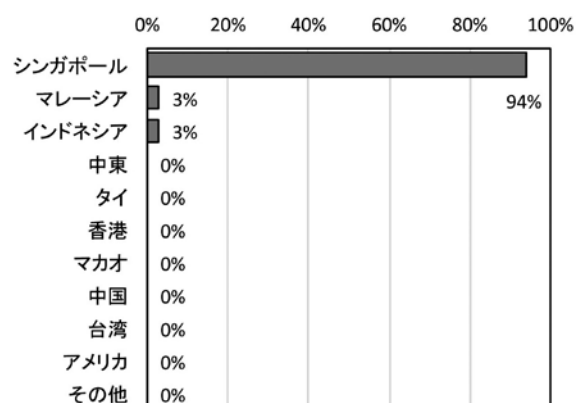


図5 【旅行同伴者】(n=27)

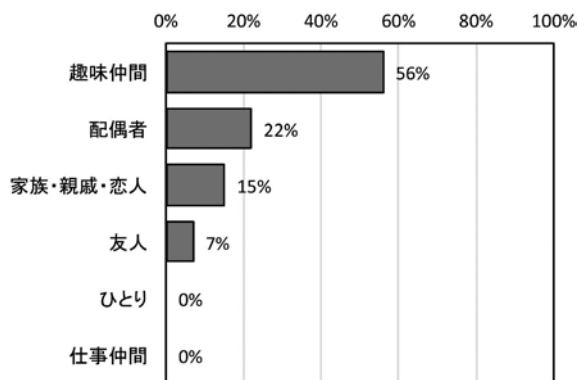


図6 【訪日旅行の有無】(n=28)

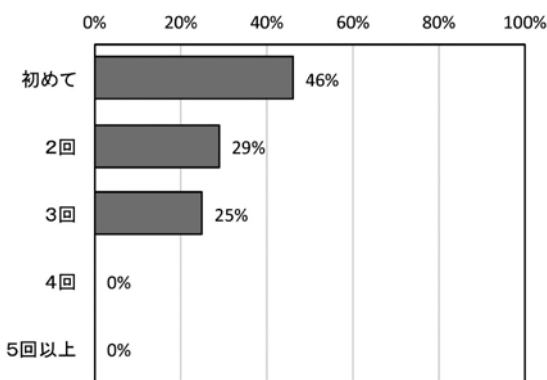


図7 【訪れたことのある場所は？】

複数回答 (n=20)

※初めての訪日となる観光客については、上のグラフに含まれておりません。

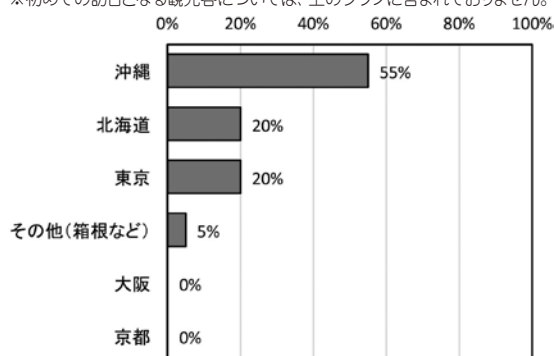
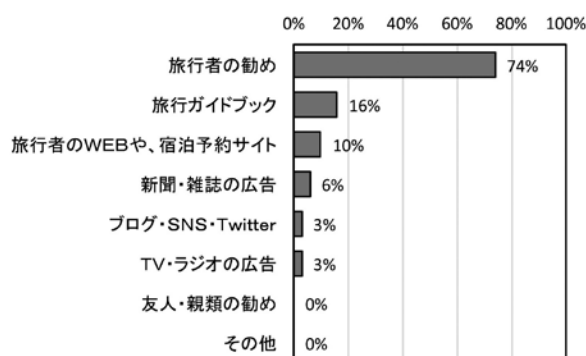


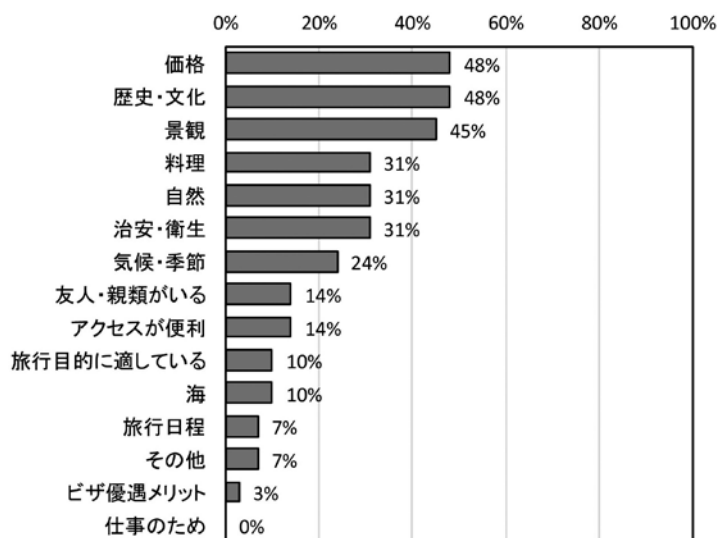
図8 【旅行地の情報源は何ですか？】

複数回答 (n=31)



回答者は、100%旅行会社の団体ツアー参加者であったため【旅行地の情報源】(図8)では、「旅行社の勧め」が最も多く、ついで多い回答は「旅行ガイドブック」となりました。「海外現地ムスリム(マレーシア)」を対象としたアンケートにおいても「旅行地の情報源」として「旅行ガイドブック」が最も多かったため「旅行ガイドブック」の影響力の高さがうかがえます。

図9 【沖縄を旅行地に選定する決め手となったポイントは何ですか？】複数回答 (n=31)



「沖縄を旅行地として」選定する決め手となったポイントは「価格(48%)」と「歴史・文化(48%)」がトップを占めており、「海外現地ムスリム(マレーシア)」を対象としたアンケートにおける「旅行地を選定する決め手となるポイント」1位も「価格」であったことから「価格」は旅行地として選ばれるために、最も重要視されるポイントであると考えられます。

また「歴史・文化」も重要度が高いことがうかがえます。

同じく「海外現地ムスリム（マレーシア）」の回答と比較すると、「料理」と「気候・季節」は旅行地を選定する決め手としては上位を占めるが、「沖縄を旅行地として」選定した決め手としては割合がやや低くなっています。逆に「治安・衛生」は、低めではあるものの、「沖縄を旅行地として」選定した決め手としての割合は高くなっています。

次に【沖縄滞在中良かったもの】（図 10）において、「観光施設・世界遺産」「ショッピング」「自然体験（海水浴・乗馬など）」「文化体験（踊り・工芸など）」が上位を占め、「海外現地ムスリム（マレーシア）」を対象としたアンケート「沖縄を訪れたらしてみたいこと」の上位とほぼ同じ結果となりました。「沖縄旅行」から期待されるコンテンツが実際に沖縄を訪れたムスリムの期待に応えられていることがうかがえます。【沖縄を旅行地として選定する決め手】（図 9）において 31% が「料理」と回答していますが、「沖縄料理」は 32% が良かったと感じています。

図10 【沖縄滞在中良かったものは何ですか?】複数回答(n=31)

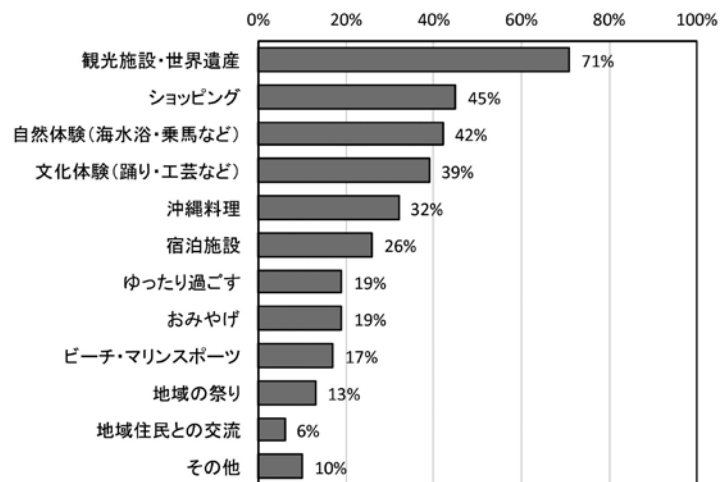
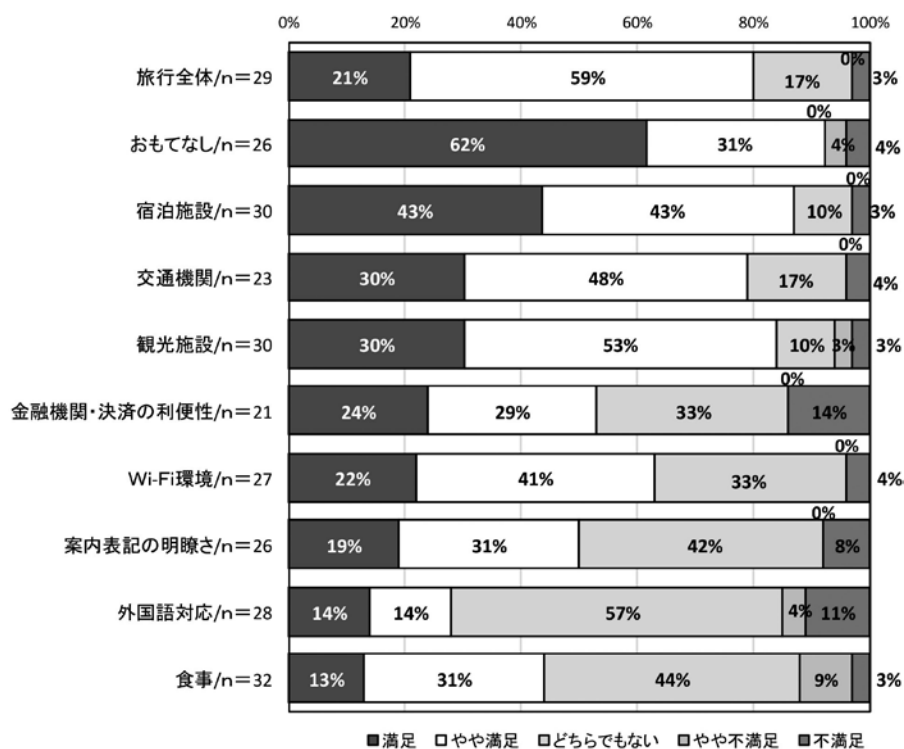


図11 【満足度を教えてください】

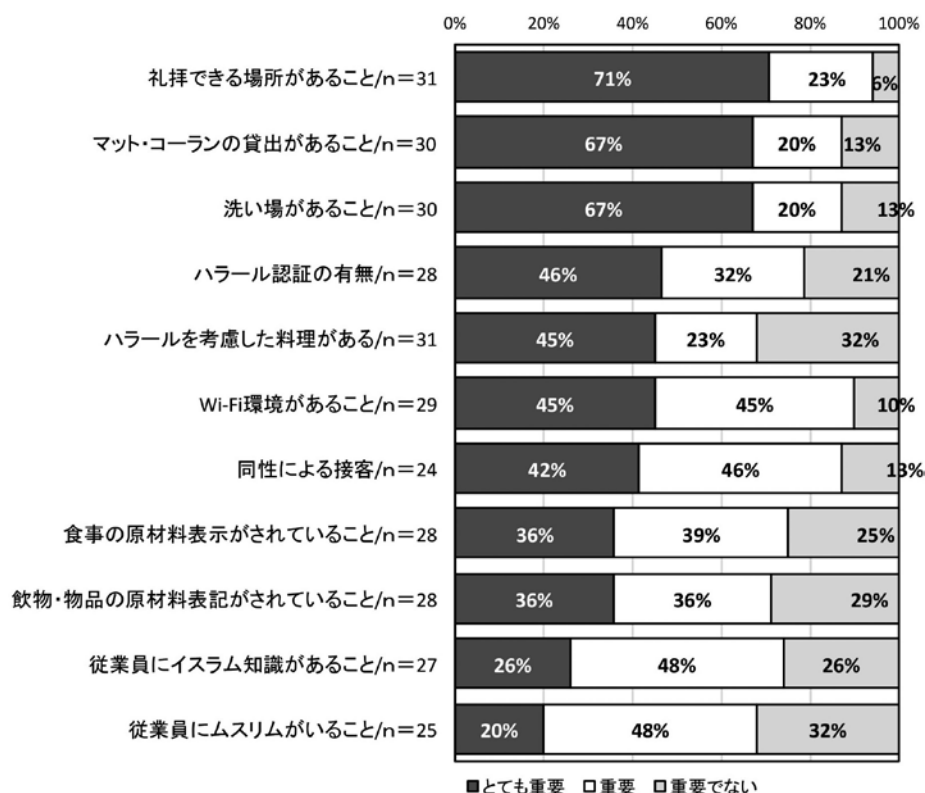


【満足度】（図 11）では「旅行全体」に対する評価は 80% の回答者が「満足」または「やや満足」と回答しており概ね満足度は高い結果となっています。

「満足」「やや満足」を合わせてポジティブ要素に着目すると、最も満足度の高かった項目は「おもてなし」（93％）であり、次いで「宿泊施設」「観光施設」となっています。一方「不満足」「やや不満足」をあわせたネガティブ要素に着目すると、最も満足度の低かった項目は「外国語対応」（15％）でした。この結果は沖縄県を訪れる外国人観光客全体の調査結果と合致しています。【参考：「平成 25 年度沖縄県外国人観光客実態調査報告書」（p21）】「金融機関・決済の利便性」（14％）「食事」（12％）も、「外国語対応」に次いで、「不満足」「やや不満足」の割合が高く、満足度が低い結果となっています。

満足度に関する結果は概ね「平成 25 年度沖縄県外国人観光客実態調査報告書」（p21）結果と合致していますが、特徴的なのは「食事」であり「平成 25 年度沖縄県外国人観光客実態調査報告書」（p22）では約 80％が食事のメニュー・味についてポジティブな回答（「満足」と「やや満足」を合算）をしています。本調査では 44％に留まっています。

図12 【ムスリム対応について如何でしたか？】



【ムスリム対応への評価】（図 12）では、沖縄旅行中のムスリム対応について「満足」の割合が半数以上だった項目は「礼拝できる場所があること」「マット・コーランの貸出があること」「洗い場があること」であり、すべて「お祈り」に関することでした。

一方「不満足」の割合が高かったものは「ハラールを考慮した料理があること」「従業員にムスリムがいること」「飲物・物品の原材料表記がされていること」があげられています。

「海外現地ムスリム（マレーシア）」調査では、「従業員にムスリムがいること」は比較的重要度が低い傾向にありましたが、沖縄旅行参加ムスリム調査では、不満足な結果となったことから、旅行前と後で意識の違いがあるように見受けられます。

沖縄旅行参加ムスリム調査結果のまとめ

- 「沖縄を旅行地として選定する決め手となったポイント」は「価格（48%）」と「歴史・文化（48%）」がトップを占め、「価格」は旅行地として選ばれるために最も重要視されるポイントであると考えられるが、今後は本県を訪れる外国人観光客が最も高く「沖縄独自の魅力」として評価している「海・ビーチの美しさ」や「治安・衛生」などをより打ち出していくことで、「価格」以上に旅行地を選定する決め手を強めていける可能性があります。
 - 「沖縄滞在中よかったもの」として、「観光施設・世界遺産（71%）」「ショッピング（45%）」「自然体験（42%）」「文化体験（39%）」が上位を占め、「海外現地一般ムスリム（マレーシア）」を対象としたアンケート「沖縄を訪れたらしてみたいこと」の上位とほぼ同じ結果となっています。「沖縄旅行」から期待されるコンテンツが実際に沖縄を訪れたムスリムの期待に応えていることがうかがえます。
 - 「旅行の満足度」に関しては最も満足度の高かった項目は「おもてなし」（満足 62%＋やや満足 31%／計 93%）となっており、最も満足度の低かった項目は「外国語対応（やや不満足 4%＋不満足 11%／計 15%）」でした。この結果は、沖縄県を訪れる外国人観光客全体の調査結果と合致しています。（「平成 25 年度沖縄県外国人観光客実態調査報告書」p21）。
- 一方で「食事」に関して「沖縄県外国人観光客実態調査」では約 80%が「食事のメニュー／味」についてポジティブな回答（「満足」と「やや満足」を合算）しているにも関わらず、本調査では 44%（満足 13%＋やや満足 31%）にとどまっており、沖縄県内のムスリム向けの「食」に関する満足度の低さが明らかとなりました。
- 回答者自身が「また沖縄に来たい」と思う割合は 78%ですが、「家族や友人に勧めたい」と思う割合は 94%と高い結果となっています。

調査の問い合わせ先：一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
TEL：098-859-6129（<http://visitokinawa.jp>）
国内事業部 受入推進課 調査担当 輪島、照喜名



『OKINAWA ムスリム旅行者おもてなし ハンドブック』

ムスリムのお客様を受け入れるための基本を
分かりやすく紹介しております。

<http://www.visitokinawa.jp/oin/manual/552>
よりダウンロードできます。

水風 けいざい

✦ OISTとの関わり

施設公開に5,000人参加

What's OIST ? 言わずと知れた日本が誇る世界最高水準の大学院大学です。

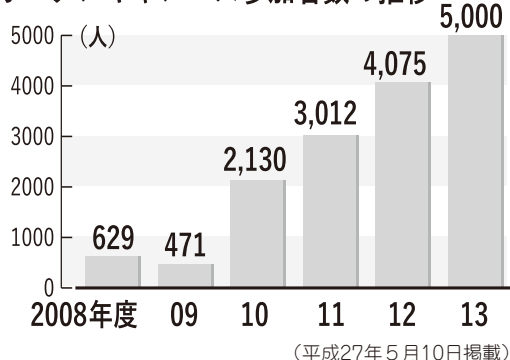
2011年11月に学校法人として設立されました。恩納村谷茶地域の広大な敷地をキャンパスに、教員と学生の半数以上を外国人とし、5年一貫制の博士課程で教育と研究は全て英語で行います。「沖縄の自立的発展と、世界の科学技術向上に寄与すること」を設立目的とし(1)世界最高水準(2)柔軟性(3)国際性(4)世界的連携(5)産学連携—という五つの基本コンセプトで研究が進められています。

12年度より毎年約20人が入学しており、学生には、生活費など必要な支援や最先端機器を備えた研究室(ラボ)が提供されるほか、世界トップレベルの研究者による懇切な指導のもと研究が行われています。14年9月現在、OIST全体で教職員659人、学生79人(うち日本人は教職員415人、学生16人)がおり、将来的には沖縄発・OIST発のノーベル賞受賞者輩出が期待されています。

地域連携の一環で年1回開催されているオープンキャンパス(施設一般公開)に13年度は5千人もの参加者が訪れています。また、県内の高校生向けに「OIST訪問プログラム」を実施しているほか、恩納村との共催で小学生向けに「夏休み科学教室」が開催されるなど、将来科学者を志す人材の発掘にも力を入れています。地域連携の一環として地域金融機関も積極的に関わっていきたくと考えます。

(沖縄銀行 恩納支店長 平島 達也)

OIST(沖縄科学技術大学院大学)
オープンキャンパス参加者数の推移



✦ 旧那覇(浮島)の経済の変遷

変わらぬ文化交流拠点

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、当支店の所在地はかつて島尻郡役所跡地(明治45年~大正15年)でした。また、当時の那覇は本島と陸続きではない「浮島」として琉球の玄関口の役割を担っており、中国・南蛮(東南アジア)・日本などの商船が寄港する対外交渉の拠点でした。

居住地区は主に三つに分かれ、それぞれ中国から渡来したとされる華人系の人々が住む「久米村」、日本との往来に従事する倭人系(日本人)が住む「若狭町」、両地区の補助的役割を担う「泉崎」がありました。このように、那覇は国内外からさまざまなヒト・モノ・文化が交流する港町であり、周辺の若松・若狭地区も青果、衣類、内装、家具などが「若松問屋街」として繁栄するなど、経済活動をけん引していました。現在は繁華街(歓楽街)のイメージが強いかもしれませんが、2014年3月には那覇新港の若狭バースに那覇クルーズターミナルビルが完成し、クルーズ船が寄港し、沖縄観光の新たな拠点として外国人観光客などが増えています。

県の入域観光客数も航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増加を背景に14年は初の700万人台を達成するなど、増加基調が続いています。外国人観光客の増加に伴い、当地区が沖縄の玄関口に近い観光拠点として、また、周辺のホテルや賃貸不動産への投資、飲食業などの高まりとともに、新たな事業が創成されることに期待が膨らみます。

(沖縄銀行 若松支店長 大井 幸子)

入域観光客数とクルーズ船寄港状況の推移

	入域観光客数(総数)			クルーズ船寄港回数			
		国内客	外国客	那覇港	石垣港	その他	合計
2010年	5,855,100	5,570,400	284,700	52	47	3	102
11	5,479,100	5,199,100	280,000	53	49	10	112
12	5,835,800	5,459,100	376,700	67	52	6	125
13	6,413,700	5,862,900	550,800	56	65	5	126
14	7,058,300	6,164,800	893,500	80	73	9	162

※2014年のクルーズ船寄港回数は速報値である。
出所:入域観光客数は県文化観光スポーツ部観光政策課、クルーズ船寄港回数は内閣府総合事務局

(平成27年5月17日掲載)

✦ インターネットバンキング

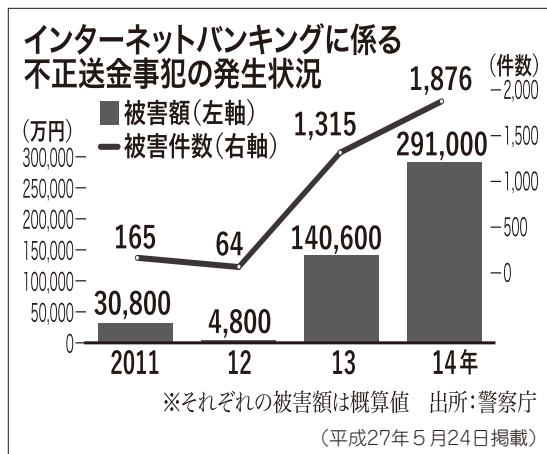
不正送金対策に理解を

近年、インターネットの普及に伴い、銀行業務サービスの一環としてインターネットバンキングの需要が高まっています。これは従来の金融機関やインターネット専門銀行などで、平日だけでなく土・日・祝日や早朝・夜間でもさまざまな金融サービス（残高照会、振り込み、定期預金作成など）が利用でき、お客さまが店頭に出向かなくてもよい点が利点となっています。

一方で、課題もあります。警察庁によると、インターネットバンキングに係る不正送金事犯の発生件数および被害額はともに増加傾向にあります。2014年の発生件数は1,876件、被害額は約29億1千万円であり、11年の発生件数165件、被害額約3億800万円と比べて、発生件数で1,711件、被害額で約26億200万円も増えています。被害防止対策としては、セキュリティソフトの無償提供や電子証明書の発行（インターネットバンキングを利用するパソコン端末を特定できるよう電子的に作られた身分証明書）、ワンタイムパスワード（一度限りしか使えない使い捨てのパスワード）などの導入に加えて、各金融機関職員が直接お客さまの元へ訪問しセキュリティ対策の強化を促すなど、幅広く被害防止策に取り組んでいます。

インターネットバンキングを利用されるお客さまにおかれましてもご自身（自社）の財産を守るため、各金融機関が推奨するセキュリティ対策やソフトの導入、更新などへのご理解とご協力をお願い致します。

（沖縄銀行 古波蔵支店長 宮城 聡）



✦ 那覇港新港ふ頭

流通に加え観光拠点に

ことしもGWに那覇ハーリーが行なわれた那覇市港町の那覇港新港ふ頭は、沖縄県の中心的な流通拠点です。

東京・阪神などの本土航路や先島との離島航路、台湾などの国外航路のフェリー・貨物船・コンテナ船・外国クルーズ船などが寄港しています。

新港ふ頭は沖縄振興計画に基づき、岸壁など港湾施設の整備が進められてきました。

新港ふ頭開発の背景に、戦後の県経済復興により港湾取り扱い貨物量が年々増え、1965年ごろから既存の「那覇商港・泊港（現在の那覇ふ頭・泊ふ頭）」のみでは対応が厳しくなったことが挙げられます。

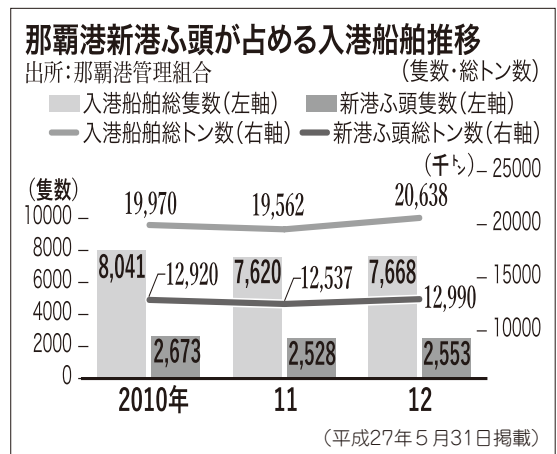
71年に水深7.5メートル岸壁と水深6.0メートル岸壁（76年に水深5.0メートルへ変更）が完成し、施設の供用が開始されました。

74年に策定された那覇港港湾計画は、沖縄と本土および近隣アジア諸国をはじめ、主要離島を結ぶ流通拠点となる港湾整備と都市活動に必要な用地造成の促進が基本方針となっています。

その後改訂された港湾計画は、船舶の大型化や多様化に対応した岸壁の整備、埠頭再編による埠頭能力の向上や海洋性リゾートなど、時代のニーズにあった整備を計画しています。

那覇港新港ふ頭は地区の西側を「国際コンテナターミナルと統合物流センター」、北側を「国内貨物を中心に取り扱うユニットロードターミナル」とする将来像を描いており、今後も県内の重要な流通拠点として幅広く利用されていくでしょう。

（沖縄銀行 曙町支店長 上原 直樹）



ゆがふ編集後記

勝連城跡と阿麻和利

勝連城跡は勝連半島の南の付け根にある小高い丘陵に築かれた「城（グスク）」で、琉球史の英雄「阿麻和利」が居城していたグスクとして有名です。築城の年代について詳しいことはまだよくわかっていないようですが、阿麻和利の時代より以前、英祖王統の時代（1260～1349）には既に築城されていたようで、歴代の按司の居城となっていたようです。勝連城跡は1972年に国指定史跡に指定され、2000年には「琉球王国のグスク及び関連遺産」の一つとして首里城や中城城などと共にユネスコの世界遺産に登録されており、その峻険で気高い風格に圧倒されます。私も個人的に、琉球の大型城跡の中ではイチオシのグスクで、近くを通る時はつい立ち寄り、仰ぎ見てしまいます。

さて、うるま市では「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画」として城跡の周辺施設や環境整備を行い、地域を更に活性化させていこうという計画が進んでいます。現在、世界遺産のグスク群で、首里城、中城城、今帰仁城（北山城）は有料化等による安定収益により整備が進み、多くの観光客が訪れ、歴史文化の発信地として沖縄観光の一翼を担っています。一方、勝連城跡も、来訪客は年々増加しており、地元の行政や関係者の努力もありますが、なんといっても伝説の勝連城主、「阿麻和利」を地元の英雄として育ててきた、一連の文化活動が、このような形で結実してきた、とも言えるのではないのでしょうか。

歴史ファンの皆さんはご承知でしょうが、琉球史の中で阿麻和利は、護佐丸（第一尚氏王朝の重臣、中城城主であり、座喜味城主でもあった）を騙し打ちし、さらに尚家王統の転覆を狙い、最後は首里王府によって成敗された悪役として登場します。さらに「組踊り玉城朝薫五番」の中の「二重敵討」でも敵役として登場する等、いわゆるヒール役です。しかし、うるま市では、阿麻和利は地元の英雄です。「肝高の阿麻和利」などの演劇活動や、実際に城跡を活用した歴史ストーリーの展開などで、特に子供たちや若い人たちの間で阿麻和利の知名度は高く、地元で誇りと希望を与えています。これは、ほんとうにすばらしい事だと思います。おらが村に、歴史上の英雄がいて、史跡があり、歴史ストーリーを地元の人々がこよなく愛し、地元で誇りを持つ。いいですねえ！うるま市の皆さんがうらやましい限りです。歴史は重要な観光資源であり、うるま市だけでなく、沖縄県の各地でグスクなどの地元の史跡が活用され、さらに琉球史、地元史、のウンチクを、誇りを持って語れるおじさん、おばさん、青年、子供たちがたくさんいたら、沖縄の自然文化とあいまって、沖縄全体が重層的かつ歴史的厚みのある国際観光地として、世界中に認知されていくことでしょう。

ちなみに、沖縄各地にはグスクが大小200～300もあると言われており、文字がほとんど残っていない為、詳細な歴史は定かではありませんが、地元で言い伝えられてきた伝承を集めても歴史ストーリーは創れるのではないのでしょうか。皆さんの地元にも、歴史と草木に埋もれた宝物が眠っているのです。沖縄ってまだまだ深い、と思います。

（株）おきぎん経済研究所 代表取締役社長 出村郁雄）